

SNSとVRにおける複合の可能性（実習の進捗発表）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-05-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 樋口, 壮, Nguyen, Minh Thuy, 小塚, 公介, 鈴木, 悠太 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00026606

SNS と VR における複合の可能性

樋口壮, NGUYEN MINH THUY (情報社会学科), 小塚公介, 鈴木悠太 (情報科学科)

私たちは VR 機能を持つデバイスを利用した SNS の可能性について、その 10 年後を予想した。

消費者庁のアンケートによるとコミュニケーション目的で SNS を使用している人が多い¹。そこで、SNS と VR を組み合わせることにより、(1) 障がいを持つ人や病気などの理由で長期間、直接的なコミュニケーションを制限された人が広くコミュニケーションを取れるようになることを支援するサービス、(2) 直接的なコミュニケーションが苦手な人向けにコミュニケーションを促進するサービスを創出することが可能と考え、これに基づき文献調査を行った。

その結果、VR と SNS を複合させるための課題としてデバイスの形状や音声をログとして残す方法、人の感覚を拡張/支援する方法の開発が必要であるが、これらは現在の技術でも解決が可能であるということが判明した。結論として、10 年後には (1)、(2) のような VR を複合した SNS が社会で活用されることを提案する。

<引用文献>

1. 消費者庁 (2016) 「SNS に関するアンケート結果」『Q8: SNS を利用する理由』, http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/caution/internet/pdf/adjustments_index_1_170111_0002.pdf

(学習マネジメント・3 クラス)